

実世界とテキスト

Real World and the Text

森田 均*¹
Hitoshi MORITA

*¹ 長崎県立大学国際情報学部情報メディア学科
Department of Info-Media Studies, University of Nagasaki

This document adds the examination of historical details to the research of the folk tale by the analysis of the tale type and the motif, and proposes a new research method.

1. はじめに

本研究は、実世界における出来事の記録と文学テキストとの関係を考察する。たとえば、出来事からテキストが生まれる、と考えるのが自然のようであるが、テキストから出来事が変容するという関係も成立する。また一方で、歴史小説と時代小説は、同じく歴史的事実を素材とするものでありながら、キャラクター設定・ストーリー展開・叙述方法などにおいて大きな隔りがある。以上のような観点に基づき、本研究は出版物の歴史的経緯、メディア・イベントの変遷や言説の変化など、局所的な事例からテキストの作用についてモデルを提示することを目指している。

ここでは、最初の実例として誰でもが知っている物語「桃太郎」を素材とする。だが、誰もが知っているがそれらは必ずしも全て同じではない。この物語には、今日でも絵本の他に[今野07]など正義と悪の関係を逆転させる話型などが出現している。[溝越10]は、[野村00][立石06]から抽出したものに、ネット上に公開されているテキストを加えて全国に散見される計63件の桃太郎話を以下のような尺度によって比較検討している。

- ・ 桃: 数、色、呼び寄せ方
- ・ 回春型、果生型
- ・ 桃をしまう場合、桃をしまわない場合
- ・ 爺・婆の反応
- ・ きび団子
- ・ 木を抜く桃太郎
- ・ お供: 種類、その他のお供
- ・ 鬼ヶ島の記述
- ・ 鬼の倒し方
- ・ 帰還

一方で「みんな違って面白い」をサブタイトルとする[立石06]は、[稲田88]に先行する資料編の全巻を網羅すると全国で流布している桃太郎話は680種類を上回ると述べている。本研究の方針としては「桃太郎」を[森田07][森田09b]のような悉皆調査ではなく、[森田08][森田09a]で示したテキストと実世界との関係について考察する、社会によって翻弄された物語の変容を構造的に示し、新たなテキスト生成の可能性を示す事例とする。

2. 物語の成立と変遷

桃太郎話は、江戸時代まで桃太郎が桃から生まれた「果生

連絡先: 森田均, 長崎県立大学国際情報学部情報メディア学科, 851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1, 095-813-5105(研究室直通, Fax 兼用), morita@sun.ac.jp

型」ではなく、桃を食べて若返った婆から桃太郎が産まれた「回春型」であったことが指摘されている[滑川81]。ここでは回春型から果生型へと転換した要因をテキストの外側から検討する。

2.1 大衆文学作家のお気に入り

[鳥越04]では硯友社一派による桃太郎話の特徴が記されている。尾崎紅葉「鬼桃太郎」と石橋思案「是非御覧日本一」は桃太郎の後日譚であり、前者は桃太郎に退治された鬼ヶ島に鬼桃から産まれた鬼桃太郎が復讐を企てるというもの、後者は桃太郎と乙姫の間に産まれる玉のために使われる安全分娩用具の「広告文学」とされている。一方でこれらは回春型から果生型転換への過渡期の作品と考えることも可能であろう。これに対して巖谷小波「桃太郎」[巖谷01]は果生型で宝物を持ち帰るといふ「普通」の話である。しかし[鳥越04]でも指摘されているように、饒舌さの中に「日本一」や「皇国」などの文言があり、ナショナルリズムの影を見出すこともできる。

2.2 国定教科書

桃太郎話と教科書との関係は、1887(明治20)年の『尋常小学読本』に掲載されたことから始まるが、[滑川81]には原文が引用されその変遷ぶりが検討されている。ここでは、明治時代に小学校の教科書に掲載されたことによって、この物語が被った2種類の変容について指摘しておきたい。一つは、果生型の定着である。生殖・誕生・婚姻を捨象することで小学校に「相応しい」話型を整えたものと考えられる。二つめは、物語の平準化と全国的な浸透である。昔話や民間説話は、文化や経済的特色、話者による相違など地域特性を有しているものであるが、明治政府による国定の教科書という強制力によって、物語の平準化が行われ、どこにでもある話となってしまったと考えられる。

2.3 内務官僚による民俗学

[柳田82]において桃太郎話とは神性を帯びた「小き子」の話であるとして様々な異型を収斂させる方向性が示されている。[大塚97-99]は当然ながらフィクションであるが、民俗学の研究者と内務官僚として国家の体制維持との間で辻褄を合わせる必要に迫られる出来事が描かれている。なお、民俗学と文学、換言すれば声の文化と文字の文化の優位性争いは、メディア特性による相違だとする相対的な結論が無難ではあるが、[諸星10]は神話の構造に世界的な共通性があることをコミックによって表現している。

2.4 戦意高揚アニメ

第二次大戦中に桃太郎を主人公とする2編の長編アニメが製作された。筆者は双方とも視聴することができたが、戦意高揚

を目的としているものと考えられる。[瀬尾 43]について[鳥越 04]には、「侵略主義のシンボル、軍国主義の旗手として桃太郎」が描かれており、ストーリー展開は真珠湾攻撃と軌を一にしている、という指摘がある。[瀬尾 45]は、大日本帝国海軍による南方支配の構図が下敷きとなっており、海軍兵士による日本語教室の様相などが描かれている。そもそも侵略に合理的意義や動機など存在するわけが無く、ここに後述する「動機無き鬼退治」との親和性を見出すことができる。

3. 物語の構造

前章では成立過程から「桃太郎」を概観したが、ここでは[溝越 10]がまとめた 63 件の具体例に関して物語の構造から考察を行う。表 1 に構造から検討すべき点をまとめた。

<表 1: 構造から検討する「桃太郎」>

どのような	桃から生まれた	婆から生まれた
誰が	桃太郎	
誰と	犬・猿・雉	蟹・臼・糞・縄・他
何の目的で		
何をして	鬼退治	
どうなった	宝物を持ち帰った	嫁を連れてきた

3.1 物語から減算されたもの

「桃太郎」から剥ぎ取られた、つまり減算されたのは、「婆から生まれた」という回春のモチーフ及び「嫁を連れてきた」という妻覓ぎ冒険譚のモチーフである。「桃から生まれた」という果生型に限定されて行ったのは教科書への採択が最大の要因と考えられる。生殖や婚姻を脱落させたのは、幼児向きに単純化させたためという解釈[稲田 78]がある。この点に関しては、[柳田 82]と[関 78]で異なる見解が示されている。なお、[松居 65]は果生型ながら結末を妻覓ぎとする特異な話型となっている。

3.2 物語に加算されたもの

一方で「桃太郎」で語られることが稀であるのは「なぜ鬼退治へ出かけるのか」という目的の部分である。救援要請や殿様からの命令という明確な動機づけが示されているものがあることはあるが、ほとんどは「鬼は鬼であるから退治する」という暗黙の了解に基づいている。戦時中のアニメは、侵略行為の動機や理由を明確化することを避けており、まさにこの「動機無き鬼退治」と同じモチーフとなる。これによって物語本体では欠落していても、話者や受け手によって動機や理由を補完するあるいは加算することが可能となる。

3.3 変数としてお供

桃太郎が鬼ヶ島へ至る道中で主従関係を結ぶお供は、犬と猿と雉という設定が一般的である。ところが、話の中で全くお供が登場しないもの、また蜂、臼、牛糞などがお供となるケースや柿太郎など「力太郎」系統との混交も散見される。このように、お供の数、種類ともに必ずしも一定ではない。

4. 物語の比較

前章まで、「桃太郎」という物語がどのように社会からいじくられたのかを明らかにしてきたが、ここでは「桃太郎」をいじくることによってどのようなテキストが生成可能となるかを検討したい。

4.1 五大昔話

[稲田 78]は、日本の五大昔話として以下を掲載している。

桃太郎, 猿蟹合戦, 舌切り雀, 花咲爺, かちかち山

しかし昔話の代表をこの 5 点とすることに特に根拠は無く、「浦島太郎」その他の昔話を取り入れている場合もあると記されている。本研究では 5 点の是非を問うよりも、桃太郎と比較する材料として他の 4 点を取り扱うこととする。さらに、[稲田 88]に掲載されているパロディとして「ももく太郎」も比較対象に加える。

4.2 話型とモチーフの指標

昔話あるいは民話を研究する際に使用する尺度としては、アールネとトンプソンによるテールタイプ及びモチーフのインデックス[Thompson 46]が一般に良く知られている。[稲田 88]はこれに依拠しつつも日本の昔話に特有の事情を考慮して構築されたユニークなインデックスである。なお、[稲田 88]は[Ipom 69]に言及しているが、機能と登場人物との関係から日本昔話に特有の事情を考慮すると、この理論の適用が難しいという見解を示している。さらに、日本の民話をモチーフによって分類した[Ikeda 71]もある。

4.3 物語演算の成果としての発展仮説

前述した五大昔話と桃太郎のパロディ話の登場人物とモチーフを比較してみた。「爺」と「婆」は「猿蟹合戦」を除く 5 点に、「犬」と「猿」そして「臼」はそれぞれ 2 点に登場する。3 章で述べたが、「桃太郎」のお供に「猿蟹合戦」が混交する事例を考慮すると、「臼」の登場は 3 点となる。このように登場人物のみを考察しても比較対象には何らかの関連性があるようだが、モチーフで検討すると表 2 のように示すことが可能となる。この成果から以下のような興味深い仮説を導き出すことができる。

(「桃太郎」+「猿蟹合戦」) × 「かちかち山」
= 「舌切り雀」 → 「花咲爺」

この発展仮説では、超自然的成長や動物の援助などをモチーフとする単純な話型のものから、モチーフの複数化を獲得して話型が複雑になっている。

5. テキスト生成の指針

本研究に先立ち、様々な桃太郎話から祖形テキストを生成させる試みを行っている。この祖形テキストについては、再検討を行うなどテキスト変容の具体例として精緻化を図って行く予定である。また、登場人物/動物/物体の入れ替えモチーフの入れ替え目的や動機の再設定も試みることによって新たなテキスト生成へと向かうことができる。社会によって「いじくられた」物語をこれ以降もどのように「いじくる」のか実例を示してみたい。

参考文献

- [Ikeda 71] Ikeda, H.: A type and motif index of Japanese folk-literature, Suomalainen Tiedeakatemia, 1971.
[稲田 78] 稲田浩二, 他・編: 日本昔話事典, 弘文堂, 1978.
[稲田 88] 稲田浩二: 昔話タイプ・インデックス, 日本昔話通観 第 28 巻, 同朋社出版, 1988.
[巖谷 01] 巖谷小波: 日本昔話, 平凡社, 2001.
[今野 07] ST 桃太郎伝説殺人ファイル, 講談社, 2007.
[松居 65] 松居直・文, 赤羽末吉・絵: ももたろう, 福音館書店, 1965.

- [溝越 10] 溝越悠: 桃太郎話の研究 物語論から見た桃太郎話, 県立長崎シーボルト大学国際情報学部情報メディア学科 2009 年度卒業論文, 2010.
- [森田 07] 森田均: 文学テキストのハイパーテキスト変換—コンピュータを利用したテキスト研究の新展開, 雄松堂, 2007.
- [森田 08] 森田均: テキストの外側, 人工知能学会全国大会(第 22 回)論文集 CD-ROM, 2008.
- [森田 09a] 森田均: テキストの外側再訪, 人工知能学会全国大会(第 23 回)論文集 CD-ROM, 2009.
- [森田 09b] 森田均: テレビ番組分析手法の精緻化へ向けて —平和式典と長崎くんち—, 国際情報学部研究紀要第 10 号, 長崎県立大学, 2009.
- [諸星 10] 諸星大二郎: マッドメン, 集英社, 2010.
- [滑川 81] 滑川道夫: 桃太郎像の変容, 東京書籍, 1981.
- [野村 00] 野村純一: 新・桃太郎の誕生, 吉川弘文館, 2000.
- [大塚 97-99] 大塚英志・原作, 森美夏・画: 北神伝綺(上-下), 角川書店, 1997-99.
- [Пропп 69] Пропп, В. Я.: Морфология сказки, Изд.2е, Наука, 1969. (プロップ著, 北岡・福田・訳, 昔話の形態学, 水声社, 1987.)
- [関 78] 関敬吾: 日本昔話大成第 3 巻本格昔話二, 角川書店, 1978.
- [瀬尾 43] 瀬尾光世・演出: 桃太郎の海鷲, 芸術映画社, 海軍省後援, 1943.
- [瀬尾 45] 瀬尾光世・脚本演出: 桃太郎 海の神兵, 松竹, 海軍省後援, 1945.
- [立石 06] 立石憲利: 桃太郎話, 岡山市デジタルミュージアム, 2006.
- [Thompson 46] Thompson, S.: The Folktale, Holt, Rinehart and Winston, Inc., 1946. Reprinted 1977 by the University of California Press. (荒木・石原・訳, 民間説話, 社会思想社, 1977.)
- [鳥越 04] 鳥越信: 桃太郎の運命, ミネルヴァ書房, 2004.
- [柳田 82] 柳田國男: 桃太郎の誕生, 定本柳田國男集第 8 巻, 筑摩書房, 1982.

<表2: 五大昔話との比較一覧>

題名	桃太郎	猿蟹合戦	舌切り雀	花咲翁	かちかち山
話型	日本昔話集成187[143] 日本昔話大成143 池田302 日本昔話通観127 AT13A(集) 爺、婆、桃太郎、犬、猿、雉、鬼	日本昔話集成59[23,26,27A] 日本昔話大成24 池田210 日本昔話通観522A AT9C(集),AT10(通) 猿、柿、蟹、栗、雉、牛糞、臼	日本昔話大成271A[191] 日本昔話大成191 池田480D 日本昔話通観85 AT480(集),AT1143A(通) 婆、爺、雀、牛飼い、馬飼い	日本昔話集成268[189,190] 日本昔話大成190 池田503F 日本昔話通観364A AT1655A(集) 婆、犬、爺、隣の爺、臼、灰、殿様	日本昔話集成78[32C] 日本昔話大成32 池田176 日本昔話通観531 AT1087(通) 爺、狸、婆、鬼
登場	爺、婆、桃太郎、犬、猿、雉、鬼	猿、柿、蟹、栗、雉、牛糞、臼	婆が川で入手	婆が川で入手	爺、狸、婆、鬼
事項	<p>B391</p> <p>B421 犬の援助</p> <p>B441.1</p> <p>B469.10</p> <p>D981.2 Magic peach</p> <p>F601.7 異常な仲間としての動物たち</p> <p>F611.3.2</p> <p>G500</p> <p>H1221</p> <p>N538.2</p> <p>T543.3</p> <p>T550.2</p> <p>T596</p> <p>T615 超自然的成長</p> <p>Z293 主人公の帰還</p>	<p>B296</p> <p>B481.3</p> <p>B762</p> <p>D1273</p> <p>D2157.2</p> <p>F1025</p> <p>F601.7 異常な仲間としての動物たち</p> <p>F811.19 樹木が種子から奇跡的に急速に成長する</p> <p>H1228.2</p> <p>K1161</p> <p>K170</p> <p>K171.9</p> <p>W111 ものぐさ</p>	<p>B222</p> <p>B182.1</p> <p>B350</p> <p>B451.7</p> <p>C321.2</p> <p>F127</p> <p>F179</p> <p>F379.1</p> <p>F379.1</p> <p>F379.2.2</p> <p>F379.2.2</p> <p>F379.2.2</p> <p>H1049</p> <p>H1049</p> <p>J2411 奇跡(魔法)を愚かしくまねる</p> <p>J2415 幸運な男を愚かしくまねる</p> <p>L210</p> <p>N820</p> <p>N820</p> <p>Q272 貪欲が罰せられる</p> <p>Q285.1.1</p> <p>Q285.1.1</p> <p>Q3</p> <p>Q3</p> <p>S167</p> <p>Z293 主人公の帰還</p>	<p>B153</p> <p>B182.1</p> <p>B211.1.7</p> <p>B335</p> <p>B421 犬の援助</p> <p>D1174</p> <p>D1263</p> <p>D1561.1</p> <p>D1561.1</p> <p>D1571.1</p> <p>D422.2.1</p> <p>D866</p> <p>D931.1.2</p> <p>D950</p> <p>E631</p> <p>F811.19 樹木が種子から奇跡的に急速に成長する</p> <p>J2401</p> <p>J2411 奇跡(魔法)を愚かしくまねる</p> <p>J2411</p> <p>J2411</p> <p>J2415 幸運な男を愚かしくまねる</p> <p>J2415</p> <p>J2415</p> <p>N511</p> <p>N550</p> <p>Q272 貪欲が罰せられる</p> <p>Q272</p> <p>Q272</p> <p>T615 超自然的成長</p> <p>T615</p>	<p>B437.4</p> <p>B511</p> <p>B512</p> <p>B857</p> <p>G61</p> <p>G85</p> <p>J1706</p> <p>J1706</p> <p>J1706</p> <p>J2171.1.3</p> <p>K1014</p> <p>K1941</p> <p>K2310</p> <p>K2310</p> <p>K2345</p> <p>K581.1</p> <p>K735.2</p> <p>K800</p> <p>K800</p> <p>K800</p> <p>K800</p> <p>K910</p> <p>K926</p> <p>R210</p>
モチーフ					